



桜美林大学大学院 2025年度Ⅰ期入試  
心理学実践研究学位プログラム 臨床心理分野  
筆記専門試験 問題用紙

| 受験番号 | 氏名 |
|------|----|
|      |    |

- \* これは問題用紙です。答えは解答用紙に記入してください。
- \* 用紙が配布されても合図があるまで開かないでください。
- \* 試験中、監督の許可なしに、部屋の外に出ることはできません。
- \* 不正行為に対しては厳正に対処します。
- \* 試験終了後、問題用紙も回収しますが、メモなどは消さなくてもかまいません。



I. 以下の文章を読み、カッコ内に適切な言葉や人名を入れなさい。

1. 認知の枠組みを変えることにより、物事を異なる視点から捉えて新たな意味付けを与えて変化を促す機能をもった、家族療法や短期療法において用いられる技法を（a.      ）という。
2. 多面的かつ重層的にクライアントを捉えて支援に活かすため、複数の心理検査を組み合わせ実施する手続きを（b.      ）という。
3. 研究において真の目的を知らせないディセプションを行った場合に、それと対にして調査や実験が終了した後に研究協力者に対して行われる事後説明を（c.      ）という。
4. データ分析に際して、平均値に影響を与える（d.      ）が存在する場合には、その影響が少ない中央値を用いることがある。
5. Wall, P.D.と Melzack, R.は、痛みを感じた時に、その部位の周辺に触れることによって生じる痛みの緩和メカニズムについて、（e.      ）を用いて説明している。
6. 全てのサービス利用者に対して、トラウマの行動や健康との関連やトラウマが生活に与える影響を理解した上で、安全性を作り出す関わり方を（f.      ）という。
7. パーソナリティ理論のうち、個人間の比較がしやすく、個人の詳細な特徴を量的に把握することに長けているものを（g.      ）という。
8. 精神疾患など個人の持つ特徴に対して、周囲から否定的な意味づけをされ、不当な扱いことをうけることを（h.      ）と呼び、ウェルビーイングの低下と関連する。
9. ある生物が、自発的に生起した特定の行動「A」に対して、弁別刺激と強化刺激を随伴させ、特定の行動「A」の出現頻度を変容させることを（i.      ）という。
10. 児童生徒が何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況を（j.      ）という。
11. 主に自閉症スペクトラム（ASD）などの発達障害がある子どもたちが示す特有の行動で、他者が言った言葉をそのまま、あるいは少し時間を置いてから繰り返すことを（k.      ）という。
12. 2つのデータまたは確率変数の間にある線形な関係の強弱を測る指標を（l.      ）という。

13. 将来の変化に備え、患者を主体として、将来の医療や介護について前もって考え、家族や医療・ケアチームが繰り返し話し合い、患者の意思決定を支援するプロセスのことを（m.     ）・ケア・プランニングという。
14. ポジティブな感情が関心や行動を広げ、資源や能力を形成するという考え方を（n.     ）理論という。
15. 家族内の相互作用を通して形成される家族内に漂う情緒的な環境や雰囲気のことを（o.     ）という。
16. 心神喪失又は心神耗弱の状態で殺人、放火等の重大な他害行為を行った人の社会復帰を促進することを目的とした処遇制度のことを（p.     ）制度という。
17. 障害を持つ持たないに関わらず、それぞれの社会や文化の中で、その人らしく生活できることを目指すことを（q.     ）という。
18. 刑罰法令に触れる行為をした14歳未満の少年を（r.     ）という。
19. 身体症状症において患者の不定愁訴を増幅してしまう認知的要因を森田正馬は（s.     ）と呼んだ。
20. がん患者の精神・心理的苦痛の除去などに関する学問を（t.     ）という。

II. 以下の設問について指定の字数で回答しなさい。

1. 保育園に通う年長男児（5歳）について、『集団行動を行うことが困難である』ことを主訴に、園から心理の専門家による巡回指導（保育現場へ赴いて相談指導を行うこと）が依頼された。本事例に対する対応方針（どのようなアセスメントを行い、誰に対してどのような助言を行うのか）について、300文字以内で述べよ。なお、巡回指導について園児の養育者からは承諾が得られている。
2. 「“エビデンスに基づく支援”とは、特定の診断/症状に対する効果が科学的に実証された特定の方法やアプローチを当該診断/症状を呈するクライアントに行うことである」との誤った理解に対して、見落としている点を指摘したうえで、“エビデンスに基づく支援”の正しい理解を300字以内で述べよ。
3. 「小学5年生の学級集団を対象としてストレスマネジメント教育を実施した。心理的ストレス反応尺度を従属変数として、介入前、介入後、3か月後の3回に渡って質問紙調査を行い、効果を測定した。1要因分散分析を行ったところ、時期の主効果が有意であった。このことから、ストレスマネジメント教育が有効であると結論づけた。」この報告の統計上の問題点と改善方法について300字以内で述べよ。
4. 精神科医療機関の外来で心理面接を担当する際に他の機関での心理面接と異なる特徴やそれに対する留意点について300字以内で述べよ。

Ⅲ. 以下は『態度が相反する他者への過度なバイアス認知を錯視経験が緩和する効果』（神原 歩（2021）心理学研究, 第 92 巻 第 1 号, pp.12-20）からの抜粋である。下記に示す結果から、本研究におけるバイアス認知に関する 3 つの仮説についてどのような結果が得られたと言えるか。適宜、具体的な分析結果を示しながら 400～600 字で記述しなさい。

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。

出典を参考にしてください。

出典

『態度が相反する他者への過度なバイアス認知を錯視経験が緩和する効果』（神原 歩（2021）心理学研究, 第 92 巻 第 1 号, pp.12-20）

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。

出典を参考にしてください。

出典

『態度が相反する他者への過度なバイアス認知を錯視経験が緩和する効果』（神原 歩（2021）心理学研究, 第 92 巻 第 1 号, pp.12-20）

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。  
出典を参考にしてください。

#### 出典

『態度が相反する他者への過度なバイアス認知を錯視経験が緩和する効果』（神原 歩（2021）心理学研究, 第 92 巻 第 1 号, pp.12-20)

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。

出典を参考にしてください。

出典

『態度が相反する他者への過度なバイアス認知を錯視経験が緩和する効果』（神原 歩（2021）心理学研究, 第 92 巻 第 1 号, pp.12-20)

MEMO    ご自由にお使いください。

-----